

～リニア時代の“ものづくり”対流拠点形成の検討～ 【概要版(案)】

ものづくりの現状・課題及び将来方向

- “ものづくり”産業で世界をリードする中部圏
- “ものづくり”産業を取り巻く大きな変化
 - 労働人口減少と労働生産性の低下
 - アジア勢の台頭と異業種参入の活性化による国際競争力の激化
 - 市場全体の変化
 - デジタル社会への移行
- “ものづくり”産業の今後の姿
 - 従来のものづくりのみならず、付加価値の高いコトづくりへと転換
 - 第4次産業革命に対応するIT人材の確保や潜在的な女性の能力活用 等
- 対応すべき“ものづくり”の課題
 - IT人材の集積を促進するためのIT事業者、スタートアップの集積が少ない
 - ものづくりを支える労働力の不足
 - 技術を向上・融合させ、技術革新を促進する知の交流の場の不足
 - イノベーションを引き起こす頭脳人材(起業家・開発者など)を惹きつける魅力ある環境づくり 等

参考

SMRのセンターとしての中部圏の役割*

- 三大都市圏の中心に位置し、全国最大の交流圏を形成
- 多様なものづくり産業とAI、IoT等、デジタル技術分野との融合による産業の革新・創造拠点に発展

※出展

スーパー・メガリージョン構想検討会最終とりまとめ(令和元年5月)

リニア中央新幹線の効果(ポテンシャル)

- 名古屋駅を中心とした2時間圏が日本最大の交流圏の中心地となる
- 企業活動で交流の活発化によるイノベーションの促進
- R&D、拠点工場などの新たな適地の創出
- リニアを活用したライフスタイル・ワークスタイルの創出
- スーパー・メガリージョンによる国際的拠点性の向上 等

“ものづくり”を進化させる地域づくりの「3つの基本方針」

- 中部圏が“ものづくり”の集積地として、引き続き日本経済を牽引していくため、環境変化に対応し、リニアを活用しつつイノベーションを引き起こし“ものづくり”を進化させる
(進化とは企業・起業家などがこれまでと異なる方法で新たな経済的な価値を生み出す)
- 3つの基本方針
 - 人材の集積・育成 : 生産性向上とコトづくりを担う“頭脳人材”の集積・育成
 - 知的対流拠点 : 頭脳人材の交流を促進する拠点の整備
 - 地域環境 : 事業者向けサポート体制、個人向け居住環境の整備

中間とりまとめ

“ものづくり”対流拠点形成に向けた具体的な取り組み

人材の集積・育成

- ・自治体実施している助成制度の活用
- ・社会ニーズに応じた育成プログラムの展開と国内外へのPR
- ・リカレント教育を受けられる環境づくり
- ・工業系大学の立地を活かした共同開発・研究を推進
- ・ワークライフバランスを考慮し、テレワークやワーケーションの推進 等

知的対流拠点

- ・コーディネーターによる企業同士を協業へと繋ぐマッチングの推進
- ・公的金融資源の活用等により整備時の初期コストの低減
- ・公共交通機関とのアクセス性を活かした駅周辺での多様なイベント等の情報発信
- ・拠点相互のイベント共有、連携(ネットワーク) 等

地域環境

【事業環境】

- ・移動の円滑性の向上(高速交通ネットワーク)
- ・次世代モビリティの最先端地域(実証実験が進む環境づくり)
- ・防災対策の推進
- ・多様なライフスタイルに対応した就業環境整備 等

【住環境】

- ・魅力ある都市空間の形成(駅前空間でのエアーマネジメント、緑の活用、ナイトタイムエコノミー)
- ・外国人も安心して生活できる環境整備(インターナショナルスクール) 等

リニア時代の“ものづくり”対流拠点形成に必要な機能、構造等

“ものづくり”対流拠点形成に向けて

- 中部圏は、“ものづくり”産業を支える改善マインドを持った優秀な人材、現場でのすり合わせ等による生産技術力やこれらの力を有する企業の高密度な集積とそれを支える各種社会インフラ(高速道路・鉄道・空港・港湾等)の整備により、我が国随一のものづくり産業の集積地として我が国の経済発展を牽引し続けてきた地域である。
- **しかしながら、従来のものづくりのみならず、付加価値の高いコトづくりへの転換が高まるなか、中部圏においてはIT分野及びスタートアップの集積が少ないことに加え、知の交流の場の不足が課題となっている。**
- 引き続き我が国の経済発展を牽引していくためには、産業を取り巻く変化に迅速に対応し、IT人材の集積・育成、知的対流拠点の形成、地域環境整備に取り組みイノベーションを引き起こし、“ものづくり”を進化させ続けることが必要である。
- 今後、全国各地域においても、第四次産業革命(IoT、AI、ロボット等)の進展による「情報」分野のボーダレス化やリニア中央新幹線と高速交通網や空港、港湾等とのネットワーク化による「人やモノの移動」といった交流圏の拡大が期待される。そうした中、中部圏においては、世界的にも卓越した産業集積や技術力をフルに活かし、ヒト・モノ・カネを圏内で対流させ“ものづくり”を進化させ続ける「ものづくり対流拠点」を目指し、その機能を戦略的に展開していくことが求められる。

“ものづくり”対流拠点形成に必要な機能、構造

(1) オープンでグローバルな対流促進機能

・新しいアイデアやビジネスの種(シーズ)を生み出すには、既存の組織内外の多様な人材のフェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションを通じたオープンでグローバルな予定調和なき対流が促進される機能が必要

(2) 社会実装を高速で実現できる機能

・新たな製品・サービス等を社会へ実装していくには、ユーザーニーズ視点から徹底的なデザイン思考をベースとして実験、検証、改良を繰り返すことが必要
そのため、中部圏の最大の強みである“ものづくり”産業の集積をフルに活かし、アイデアから社会実装までを高速で推し進める機能が必要

(3) 災害に対する粘り強くしなやかさを備えた地域の構築

・南海トラフ地震や頻発・激甚化する自然災害に備えるため、最悪の事態を念頭に置き、事前防災・減災と迅速な復旧・復興に資する施策を総合的、計画的に実施

展開されるべき地域戦略(案)

(1) フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーション環境の構築

→圏域内の移動環境の円滑化
(リニアと高速交通ネットワーク)
→知的対流拠点のネットワーク化
(中部圏内外、海外も含む)

(2) 社会実装を高速で実現させる地域づくり

→圏域全体で社会実験に取り組む
→規制緩和等の行政のサポート、地域住民の理解・協力
→次世代のものづくりを実装した地域
(次世代の社会インフラやライフスタイルのあるべき姿を発信する地域)

(3) 産学官民の有機的な連携による防災・減災対策

→ハード・ソフト両面からの防災・減災国土強靱化対策の実施
(ex. 事業継続計画の策定、サプライチェーンの複線化、データシステムの分散管理 等)

地域戦略の実現に向けた体制

地域全体の魅力を高め、様々な対流を促す地域づくりを推進することで【“ものづくり”対流拠点】を実現する体制を構築

【中部圏全体】 産学官が連携し、圏域全体での共通戦略のもと推進していく体制(組織)を整備

【各 地 域】 フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーション環境を活かし、産学官民で地域戦略を具体化する体制づくり

スパー・マガリジョンにおける“ものづくり”対流拠点の具体像イメージ (別図参照)

スーパー・メガリージョンにおける“ものづくり”対流拠点の具体像(イメージ)

【“ものづくり”対流拠点】

国内外からヒト・モノ・カネが対流し、イノベーションを引き起こすことで世界に先駆けて圧倒的スピードで新たな価値を生み出し、新しいサービスや製品を利用したサービスとセットにした“コト(体験)づくり”を提供し続ける拠点

